

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2023年 8 月14日
【四半期会計期間】	第46期第 1 四半期(自 2023年 4 月 1 日 至 2023年 6 月30日)
【会社名】	株式会社安楽亭
【英訳名】	ANRAKUTEI Co.,Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 柳 先
【本店の所在の場所】	埼玉県さいたま市中央区上落合二丁目 3 番 5 号
【電話番号】	048-859-0555(代表)
【事務連絡者氏名】	財務経理部次長 長 江 貴 史
【最寄りの連絡場所】	埼玉県さいたま市中央区上落合二丁目 3 番 5 号
【電話番号】	048-859-0555(代表)
【事務連絡者氏名】	財務経理部次長 長 江 貴 史
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町 2 番 1 号)

第一部 【企業情報】

第 1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第45期 第 1 四半期 連結累計期間	第46期 第 1 四半期 連結累計期間	第45期
会計期間	自 2022年 4 月 1 日 至 2022年 6 月30日	自 2023年 4 月 1 日 至 2023年 6 月30日	自 2022年 4 月 1 日 至 2023年 3 月31日
売上高 (千円)	6,923,135	7,256,427	28,566,891
経常利益 (千円)	232,535	255,532	248,186
親会社株主に帰属する 四半期純利益 又は親会社株主に帰属する 当期純損失() (千円)	45,927	311,204	253,831
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	52,171	318,081	248,542
純資産額 (千円)	4,923,007	4,938,636	4,621,309
総資産額 (千円)	21,385,356	19,629,028	20,051,656
1株当たり四半期純利益 又は1株当たり当期純損失() (円)	21.48	145.58	118.74
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)			
自己資本比率 (%)	23.0	25.2	23.0

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、経営者が連結会社の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に重要な影響を与える可能性があると認識している主要なリスクの発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、新型コロナウイルス感染症の5類移行等に伴い個人消費をはじめ経済活動の正常化が進みましたが、ウクライナ情勢の長期化、円安、世界的な物価上昇等不安定な状況は続き、先行きが不透明な状況で推移しました。

外食産業におきましては、新型コロナウイルス感染症への警戒感が薄らぎ、客足や売上は回復傾向にあるものの、物価上昇に対する消費者の生活防衛意識は依然強く、原材料価格やエネルギーコスト等の高騰、人材不足等の状況の中、厳しい経営環境が続いております。

このような環境のもと、当社グループは、経営理念である「食を通じて地域社会の豊かな生活文化の向上に貢献する」に基づき、お客様の基本ニーズである「安全・安心」に徹底してこだわった「自然肉100%」の商品提供を堅持するとともに、コロナ禍を経て変化した消費者の意識・行動を的確にとらえ、収益力を維持向上させていけるよう、商品開発や販売促進、オペレーション改善にも積極的に取り組んでまいりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の業績につきましては、売上高72億56百万円（対前年同期比4.8%増）、営業利益2億60百万円（前年同期は営業損失2億53百万円）、経常利益2億55百万円（対前年同期比9.9%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益3億11百万円（対前年同期比577.6%増）となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

なお、当第1四半期連結累計期間より、報告セグメントを従来の「安楽亭業態」、「七輪房業態」、「アークミール」及び「その他業態」から、「安楽亭・七輪房業態」、「アークミール業態」及び「その他業態」に変更し、共通費の集計及び配賦方法を変更しております。当第1四半期連結累計期間の比較・分析は、セグメント変更後の区分に基づいております。

安楽亭・七輪房業態

安楽亭・七輪房業態の当第1四半期連結累計期間末の店舗数は179店舗であります。内訳は直営126店舗、暖簾16店舗、FC37店舗であります。

販売促進及び商品開発につきましては、「安楽亭」にて、素材の特長を生かす「自然肉」の美味しさと価値を消費者にダイレクトに伝える新メニュー「ワイルドシリーズ」として、「ワイルドカルビ」及び「ワイルドロース」に続き、4月に「ワイルド上タン」を販売開始しました。「ワイルドシリーズ」については、安楽亭創業60周年記念大皿「煌き（きらめき）」等により積極的に販売訴求してまいりました。その一方で、メニューの価格レンジを拡大してより幅広いニーズにこたえるため、税込み500円の「ワンコインランチ」の販売を再開いたしました。

さらに、ディナーの時間帯の来店を促進する施策として20時以降来店のお客様限定で生ビールやカルビ等をプレゼントする企画を行ったほか、お客様からの多数のご要望を受け、「牛タンシチュー」等の往年の人気メニューの復活販売等を実施しました。

「七輪房」では、ゴールデンウィーク特別メニューとして上タンや黒毛和牛を華やかに盛り合わせた「人気部位満喫盛り」を販売する等、七輪房の多様で上質な肉の魅力をアピールするフェア施策を実施してまいりました。さらに、ディナー時間帯の来店促進として「20時以降来店のお客様限定 生ビール20%OFFクーポン」、春の入学シーズンに「春の学割クーポン」を配信する等、ニーズや時節に合わせた施策を実施しました。

以上の結果、安楽亭・七輪房業態の当第1四半期連結累計期間の売上高は29億53百万円（対前年同期比5.8%減）となり、セグメント利益（営業利益）は37百万円（前年同期はセグメント損失87百万円）となりました。

アークミール業態

アークミール業態の当第1四半期連結累計期間末の店舗数は131店舗であります。内訳は直営129店舗、FC2店舗であります。アークミール業態には、「ステーキのどん」、「しゃぶしゃぶどん亭」、「フォルクス（ステーキ）」を含んでおります。

販売促進及び商品開発につきましては、「ステーキのどん」、「しゃぶしゃぶどん亭」、「フォルクス」の各業態において「母の日ウィーク」「父の日ウィーク」としてお肉やデザートのパズントクーポン配信、日替わりランチメニューへのポークグリル新規導入（ステーキのどん）、土日祝限定のお寿司やデザートをしゃぶしゃぶとあわせて楽しめる「スペシャルランチ膳」（どん亭）の販売等、積極的に来店促進の施策を展開してまいりました。

以上の結果、アークミール業態の当第1四半期連結累計期間の売上高は41億71百万円（対前年同期比13.7%増）となり、セグメント利益（営業利益）は3億26百万円（前年同期はセグメント損失48百万円）となりました。

その他業態

その他業態の当第1四半期連結累計期間末の店舗数は7店舗であります。内訳は直営5店舗、FC2店舗であります。なお、その他業態には、「からくに屋（焼肉）」、「花炎亭（焼肉）」、「上海菜館（中華）」、「カフェビーンズ（喫茶）」、「安楽亭ベトナム（焼肉）」を含んでおります。

以上の結果、その他業態の当第1四半期連結累計期間の売上高は1億31百万円（対前年同期比12.2%増）となり、セグメント損失（営業損失）は5百万円（前年同期はセグメント損失6百万円）となりました。

当第1四半期連結会計期間末の資産は、前連結会計年度末に比べ4億22百万円減少し、196億29百万円となりました。これは、売掛金の減少、原材料及び貯蔵品の減少等が要因です。負債は、前連結会計年度末に比べ7億39百万円減少し、146億90百万円となりました。これは、支払手形及び買掛金の減少、長期借入金の減少等が要因です。純資産は、前連結会計年度末に比べ3億17百万円増加し、49億38百万円となりました。これは、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上等が要因です。

3 【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	8,000,000
計	8,000,000

【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末 現在発行数(株) (2023年6月30日)	提出日現在発行数(株) (2023年8月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	2,139,434	2,139,434	東京証券取引所 スタンダード市場	単元株式数は100株で あります。
計	2,139,434	2,139,434		

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2023年4月1日～ 2023年6月30日		2,139,434		3,182,385		147,735

(5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末日現在の「発行済株式」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（2023年3月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

2023年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 1,800		
完全議決権株式(その他)	普通株式 2,127,400	21,274	
単元未満株式	普通株式 10,234		一単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	2,139,434		
総株主の議決権		21,274	

(注)「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式6株が含まれております。

【自己株式等】

2023年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社安楽亭	埼玉県さいたま市中央区 上落合2 - 3 - 5	1,800		1,800	0.08
計		1,800		1,800	0.08

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（2023年4月1日から2023年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（2023年4月1日から2023年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、監査法人アヴァンティアによる四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年 3 月31日)	当第 1 四半期連結会計期間 (2023年 6 月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,597,664	2,726,288
売掛金	1,310,690	1,030,959
商品及び製品	622,297	621,124
仕掛品	5,330	7,651
原材料及び貯蔵品	1,096,972	867,436
前払費用	456,027	572,425
その他	115,636	55,961
貸倒引当金	4,917	4,917
流動資産合計	6,199,701	5,876,929
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	3,153,797	3,088,874
機械装置及び運搬具（純額）	58,982	54,821
工具、器具及び備品（純額）	379,839	381,445
土地	6,080,942	6,080,942
リース資産（純額）	80,138	73,911
建設仮勘定	23,154	12,056
有形固定資産合計	9,776,855	9,692,052
無形固定資産		
のれん	12,133	9,100
その他	533,838	533,333
無形固定資産合計	545,972	542,434
投資その他の資産		
投資有価証券	150,809	154,434
長期貸付金	1,885	1,380
長期前払費用	85,575	81,995
繰延税金資産	165,834	198,704
敷金及び保証金	3,123,744	3,080,006
その他	27,998	27,792
貸倒引当金	26,721	26,701
投資その他の資産合計	3,529,126	3,517,612
固定資産合計	13,851,954	13,752,098
資産合計	20,051,656	19,629,028

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年 3 月31日)	当第 1 四半期連結会計期間 (2023年 6 月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	940,679	825,475
短期借入金	3,622,200	3,622,200
1 年内返済予定の長期借入金	1,492,056	1,449,108
リース債務	36,693	31,289
割賦未払金	301,804	288,813
未払金	321,709	296,173
設備関係未払金	67,650	31,072
未払費用	823,397	863,247
未払法人税等	100,338	41,553
未払消費税等	447,450	335,852
賞与引当金	156,200	156,160
資産除去債務	7,782	300
その他	422,138	367,264
流動負債合計	8,740,100	8,308,510
固定負債		
長期借入金	4,448,644	4,218,958
リース債務	115,089	108,112
長期割賦未払金	650,943	583,332
繰延税金負債	185,180	186,279
役員退職慰労引当金	142,370	145,627
退職給付に係る負債	441,669	436,642
資産除去債務	351,974	352,112
その他	354,374	350,815
固定負債合計	6,690,246	6,381,880
負債合計	15,430,346	14,690,391
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,182,385	3,182,385
資本剰余金	2,472,098	2,472,098
利益剰余金	1,052,073	740,868
自己株式	10,349	11,103
株主資本合計	4,592,061	4,902,510
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	19,815	22,342
為替換算調整勘定	11,434	15,844
退職給付に係る調整累計額	2,002	2,061
その他の包括利益累計額合計	29,248	36,125
純資産合計	4,621,309	4,938,636
負債純資産合計	20,051,656	19,629,028

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

	(単位：千円)	
	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)
売上高	6,923,135	7,256,427
売上原価	2,612,921	2,740,949
売上総利益	4,310,213	4,515,477
販売費及び一般管理費	4,563,499	4,254,562
営業利益又は営業損失()	253,285	260,915
営業外収益		
受取利息	916	339
受取配当金	1,752	1,815
受取地代家賃	11,747	12,194
助成金収入	499,718	
その他	7,206	12,015
営業外収益合計	521,341	26,365
営業外費用		
支払利息	32,889	29,390
賃貸収入原価	1,608	1,635
その他	1,021	723
営業外費用合計	35,519	31,749
経常利益	232,535	255,532
特別利益		
受取保険金		2,376
受取補償金		100,000
特別利益合計		102,376
特別損失		
固定資産除却損	0	2,481
減損損失	96,462	8,801
賃貸借契約解約損	76,508	3,025
特別損失合計	172,971	14,308
税金等調整前四半期純利益	59,563	343,601
法人税、住民税及び事業税	62,205	65,236
法人税等調整額	48,569	32,839
法人税等合計	13,636	32,396
四半期純利益	45,927	311,204
親会社株主に帰属する四半期純利益	45,927	311,204

【四半期連結包括利益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)
四半期純利益	45,927	311,204
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,117	2,526
為替換算調整勘定	7,703	4,409
退職給付に係る調整額	341	58
その他の包括利益合計	6,244	6,877
四半期包括利益	52,171	318,081
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	52,171	318,081

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)
減価償却費	188,218千円	172,718千円
のれんの償却額	3,033千円	3,033千円

(株主資本等関係)

前第1四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日
後となるもの

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)

1. 配当金支払額

該当事項はありません。

2. 基準日が当第1四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第1四半期連結会計期間の末日
後となるもの

該当事項はありません。

(収益認識関係)

「注記事項(セグメント情報等)」に同一の内容を記載しているため、注記を省略しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第1四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	安楽亭・七輪房 業態	アークミール 業態	その他事業	計			
売上高							
顧客との契約 から生じる収 益	3,136,049	3,669,942	117,143	6,923,135	6,923,135		6,923,135
外部顧客への 売上高 セグメント間 の内部売上高 又は振替高	3,136,049	3,669,942	117,143	6,923,135	6,923,135		6,923,135
計	3,136,049	3,669,942	117,143	6,923,135	6,923,135		6,923,135
セグメント損失 ()	87,733	48,774	6,491	142,999	142,999	110,285	253,285

(注) 1. セグメント損失の調整額は全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「安楽亭・七輪房業態」セグメントにおいて、減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第1四半期連結累計期間においては39,185千円であります。

「アークミール業態」セグメントにおいて、減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第1四半期連結累計期間においては57,277千円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

当第1四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント				合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	安楽亭・七輪房 業態	アークミール 業態	その他業態	計			
売上高							
顧客との契約 から生じる収 益	2,953,776	4,171,197	131,453	7,256,427	7,256,427		7,256,427
外部顧客への 売上高 セグメント間 の内部売上高 又は振替高	2,953,776	4,171,197	131,453	7,256,427	7,256,427		7,256,427
計	2,953,776	4,171,197	131,453	7,256,427	7,256,427		7,256,427
セグメント利益 又は損失()	37,769	326,167	5,220	358,717	358,717	97,801	260,915

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額は全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

当第1四半期連結会計期間より、当社グループの経営管理及び事業実態に合わせた損益管理を行うため、事業セグメントの区分方法を見直し、報告セグメントを従来の「安楽亭業態」「七輪房業態」「アークミール」「その他業態」から、「安楽亭・七輪房業態」「アークミール業態」「その他業態」に変更し、共通費の集計及び配賦方法を変更しております。

なお、前第1四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の区分方法により作成したものを記載しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「アークミール飲食店事業」セグメントにおいて、減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第1四半期連結累計期間においては8,801千円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

(1 株当たり情報)

1 株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第 1 四半期連結累計期間 (自 2022年 4 月 1 日 至 2022年 6 月30日)	当第 1 四半期連結累計期間 (自 2023年 4 月 1 日 至 2023年 6 月30日)
1 株当たり四半期純利益	21円48銭	145円58銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(千円)	45,927	311,204
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益(千円)	45,927	311,204
普通株式の期中平均株式数(株)	2,137,801	2,137,615

(注) 潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

当社は、2023年 7 月21日開催の取締役会において、次のとおりのシンジケートローン契約による資金の借入を行うことを決議し、資金の借入を実施しました。

(1) 資金使途	今後の事業展開を見据えた運転資金
(2) アレンジャー兼エージェント	株式会社みずほ銀行
(3) ジョイント・アレンジャー	株式会社商工組合中央金庫、株式会社埼玉りそな銀行
(4) 参加金融機関	株式会社横浜銀行他、計 5 金融機関
(5) 借入金額	847,000千円
(6) 借入金利	変動金利
(7) 借入実行日	2023年 7 月31日
(8) 返済期限	2028年 7 月31日
(9) 返済方法	元金均等返済
(10) 担保・保証の有無	無

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2023年 8 月14日

株式会社 安楽亭
取締役会 御中

監査法人アヴァンティア

東京都千代田区

指定社員
業務執行社員 公認会計士 相 馬 裕 晃

指定社員
業務執行社員 公認会計士 吉 田 武 史

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社安楽亭の2023年4月1日から2024年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（2023年4月1日から2023年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（2023年4月1日から2023年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社安楽亭及び連結子会社の2023年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

強調事項

「注記事項（重要な後発事象）」に記載されているとおり、会社は、2023年7月21日の取締役会において、資金の借入を行うことを決議し、2023年7月31日付けで資金の借入を実行している。

当該事項は、当監査法人の結論に影響を及ぼすものではない。

四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) １．上記の四半期レビュー報告書の原本は、当社（四半期報告書提出会社）が四半期連結財務諸表に添付する形で別途保管しております。

２．XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれておりません。